1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273800118		
法人名	社会福祉法人沼風会		
事業所名	グループホーム沼風苑		
所在地	千葉県柏市箕輪588		
自己評価作成日	2019年10月27日	評価結果市町村受理日	2020年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2019年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特養やデイサービスを併設している為、大ホールやマイクロバスの利用ができ運動会や化粧教室、日帰り旅行などに活用しご家族様にも楽しんで頂いています。また、納涼祭などは全館合同で行う事でスケールメリットを生かし大規模なイベントとなり、近隣のボランティアのご協力と沢山のご家族様の参加により毎年ご好評を頂いております。平成31年度からは身体拘束と虐待の防止に力を入れており苑内研修を重ねて職員の些細な行動や言動にまで注意するように指導し意識の向上に努めています。日常生活では近隣に自然が多いので季節の花を見に出かけたり、地域のサロンに参加させてもらい地域住民の方々と交流をする等出来るだけ外出の機会を設けるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、家族や利用者からの要望が多かった外出支援に力を入れている。毎月、誕生日を迎えた利用者とその家族をランチに誘い、利用者や家族と一緒に過ごせる時間を増やしている。地域との交流は小・中学生の体験学習受け入れだけでなく、近隣サロンには毎回参加するなど幅広く、長年にわたり継続している。同一敷地内のデイサービス利用者や特別養護老人ホーム利用者とは顔なじみとなっている。納涼祭、文化祭、運動会等の年間行事や、研修、防災、事故対策等7種類の委員会はグループ内に作られ一体的な効率運営がされている。創設20周年を迎え「笑顔の絶えない明るい施設」を目指して頑張っている様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の広報誌に掲載しており職員に周知する様に心掛けている。また、各ユニットごとに年間目標を定め、具体的なケアに活かしている。	理念をそれぞれ3ユニットの入口に掲示するとともに、毎月の広報誌にも掲載し、職員や家族、利用者と共有している。今年度はとくに「外出機会を増やす」を具体的目標として実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンに毎月参加させてもらったり、ボランティアや学生が職場体験で来苑したりしている。地域のコンサートへ出演したり、近隣の認知症カフェに出かけて地域とのつながりを作っている。	地域との付き合いは長い。小中学校からのボランティアや専門学校の実習生受入れのほか、保育園のイベントに参加したり、地域住民との交流の場に毎回参加している。ホールを近隣ボランティアに開放しており喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジフレンズ(認知症ケアサポーター)の実習を受け入れ、認知症ケアについて指導している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回開催しており、市の職員や家族、地域の方などから様々な意見や地域資源の情報を頂きサービスに活かしている。	運営推進会議には家族、職員以外に市役所高齢支援課や地域包括支援センターが参加している。人材の確保、離職率、外国人受入れの是非、学生の新規採用等について意見交換が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	柏市の情報発信メールに登録しており、随時メールで最新情報などが届いている。また、運営推進会議やGH連絡会にて市の職員と意見交換する機会がある。	市役所高齢者支援課とはグループホーム連絡会や運営推進会議の時に情報交換をしている。登録済の柏市情報発信メールを通じて研修の申込みをしたり、事故報告をするなど有効活用をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束防止委員会を立ち上げ、全館合同で勉強会を実施している。また、グループホーム内でも全職員にアンケートをとり、自分たちのケアを見直す等の取り組みをしている。	身体拘束防止委員会を4月に立上げ勉強会をしている。全職員を対象に身体拘束や不適切ケアについてのアンケートを実施。80件ものアンケートがあり、対策等について職員の共有認識を図った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上の身体拘束防止委員会にて虐待についても行っている。グループホーム内でも同じく自身のケアが虐待に当たらないか？無意識に虐待に当たる声掛けなどしてしまっていないか？確認した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	柏市が実施している成年後見人の勉強会に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問点がないか？確認し理解の得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アセスメント時に利用者の思いを確認している。ご家族へは運営推進会議や面会時や必要時はカンファレンスに参加して頂き意見を聞くように努めている。利用は無いが意見箱も設置している	運営推進会議に参加した家族には運営についての要望を聞くようにしているが意見はとくに出てはいない。家族の要望や意見は、来訪時やイベント参加の機会をとらえて積極的に聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各主任は職員の意見を聞くように努め、毎月のセクション会議などで職員の声を伝えられるようにしている。	職員から、誕生月の利用者を外食で祝う仕組みを作りたい、との提案がセクション会議であり、実行に移されている。職員から提案があった場合、管理者は一緒になって考え、アドバイスするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し細かい点まで評価出来るようにしているほか、残業を減らすように業務などを工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体合同で毎月の事例検討会や定期的な研修を研修委員会を中心に企画し実施している。各現場ごとにその時の状況に合わせて必要な技術の研修を適時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に加入しており、スタッフ交流会や研修会、施設見学会など交流する機会を多く設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々にあったコミュニケーションを心掛け本人の言葉や表情、態度などから不安や要望を汲み取りケアプランに取り入れ安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活歴や趣味、趣向等を聞き職員間で共有し早く落ち着いた生活を送れるように努めている。また面会時には報告など細かい情報交換を心掛け信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全員が注意し見守り、情報共有をして必要であれば検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気づくりを大切に、家事など出来る事はして頂き役割作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけ、共に過ごせる機会を提供出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方で会えない方に手紙を書いたり、特別面会室があり大勢の方が来られても落ち着いて過ごせる環境がある(宿泊も可能) また地域のイベントに積極的に参加している。	契約時に、知人等の面会時の受入可否を伺い対応している。毎月の公民館の集いに参加しており他地区の参加者と挨拶を交わしている、また10年来の各ボランティアともすっかり馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の相性や趣向を考慮しながら、関わりやすいように支援する様に努めている。また、相性の悪い方同士は注意を払いトラブルを防ぐように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でもフォローが必要な場合は手紙や電話などで連絡をとり関係性の継続に努めている。時には遊びがてらに相談に来られる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話などから希望、意向を探り職員間で共有している。ケアプランのアセスメント時には本人に聞き取りを行っている。意思表示の困難な方は表情や動作から思いを推測している。	毎日のコミュニケーションを大切にしており、本人が話しやすい雰囲気作りや声掛けを行い、思いや意向等を汲み取っている。家族アンケートでも、話をよく聞いてくれる(74%)・まあ聞いてくれる(26%)の回答を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に生活歴や生活環境、どんな物が好きだったか?等の情報シートを記入して頂き職員で共有している。また、それらを元に会話をする中で新たな情報があればケース記録に記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化や気が付いた事などを記録し情報を共有している。また、適時カンファレンスを行い問題点や対処法を検討し把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化や現状をケアマネージャーに報告、相談しケアプランに反映している。担当者会議に家族にも参加してもらい意見をもらうこともある。	本人・家族の意向等を踏まえ、情報シートやケース記録等と居室担当者の意見等を総合判断して介護計画を作成している。モニタリングは利用者により異なり、3~6~12か月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し共有している。毎月ごとに考察を行い変化に合わせてケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望、要望に常に耳を傾けて柔軟な対応をとれるように心掛けている。時には、要望に応じて昼食の献立を急に変更したり、話の流れでドライブに出かけたりすることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに積極的に参加している。定期的にボランティアの方が来苑してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科と歯科の往診があり、インフルエンザの予防接種なども対応している。急変時は電話で指示をもらったり、緊急で受診している。	内科医月2回、歯科医毎週の来診がある。眼科・皮膚科等の受診には職員が対応している。看護師も新しく配置し、体調の変化や便秘の対応など相談し指示をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、便秘の対応など報告、相談し指示をもらっている。ケガの処置や医療行為については看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院の医師が隔週で往診に来るので、その際に相談や情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に看取りを希望される方には説明のうえ家族、医師、看護師、ケアマネジャー、介護職、で確認書を取り交わしている。	契約時に、重度化した場合の事業所方針を説明している。終末期に意向を再確認し、医療的処置がなければ看取りが出来ることを伝えている。家族の協力を得ながら、医師の指示のもと、看護師、ケアマネジャー、介護職がチームケアで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月、救急法の訓練、講習を実施している。急変時対応のマニュアルも作成しており、経験の浅い職員でも対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立ち合いでの訓練がある他に定期的に自主避難訓練や炊き出し訓練を行っている。災害時用の食料等も備蓄してある。	年2回、消防署の立会いで避難訓練を実施した。他に夜間想定地震・水害・土砂崩れや炊き出し等の自主訓練を行っている。食料のみならずカセットコンロや薪ストーブなども備蓄品に追加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアの実践を心掛け、一人の人として尊重し支援する様に取り組んでいる。	その人らしい状態で日々を過ごせるよう、一人ひとりを尊重した言葉掛け等に努めている。今、どのような状態や気分なのか、どうしたいかなど本人の立場に立った対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のレベルに合わせて思いや希望を表せるように働きかけ、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、出来るだけ入居者のペースに合わせ、編み物、脳トレ、塗り絵などを準備してあり希望者にはして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでもらったり、化粧や髭剃りなど出来る方にはして頂いている。定期的に資生堂化粧教室を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや野菜切りや皿拭きな出来る事は分担してやって頂いている。家庭菜園で収穫したり献立を考えてもらったりもしている。	「何食べたい？」と皆に問いかけ、毎月1回リクエストメニューが登場している。皮むきや食器洗いなど役割意識をもって行っている方もいる。刻みやペースト状など状態に合わせた食事や介助が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談のうえ献立を作成している。必要に応じ食事形態を変えたり摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、行っている。介助が必要な方には個々に合わせた方法で実施している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々に合わせて介助している。出来るだけトイレでの排泄を心掛け、必要であれば2人介助などで対応している。	従来よりおむつをつけない支援に取り組んでいる。本人の状態によっては2人介助で対応している。トイレでの排泄を心掛け、なるべくおむつに頼らない介護に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況は毎日チェックしており、看護師や医師と相談し便秘時は下剤を追加したり、乳酸菌飲料を利用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、沸かしてあり出来るだけ個人の希望に沿って入浴して頂いている。個浴が困難な場合は特養の特別浴槽を借りることもできる。	湯張りを毎日行い、ひとり週2～3回の入浴支援をしている。見守りのもとで入浴自立の方もいる。また状態によっては併設特養の機械浴での入浴も可能となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自由に休んで頂いているが夜間に影響しないように適当な時間で声をかけている。また、外気浴や散歩、家事手伝いなど出来るだけ体を動かす様に心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬一覧をファイルに入れ、随時確認できるようにしてある。処方が変わった時は申し送りを徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや散歩、外気浴などで楽しめる様に心がけている。能力に合わせた家事手伝いをお願いして役割を作っている。晩酌や喫煙なども要求があれば対応できる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝礼、ゴミ捨て等、外へ出る時は出来るだけ一緒に行くようにしている。ドライブ、買い物、地域のイベントなど定期的に出かけている。今年度より誕生日の方の夕食を実施している。	毎日ホーム周りを散歩し、時には近くの道の駅まで足を伸ばすこともある。日帰り旅行、夕食、買い物、地域のイベントへの定期的参加等、外出支援に重きを置いた支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には一部を管理してもらい買い物時や外の自販機で自由に使用してもらっている。自己管理が出来ずお金の訴えが多い方で玩具のお金を持つことで満足されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあれば電話をかけたり手紙を書いてもらい出してあげるように支援している。携帯電話を利用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を季節の花や行事の写真で飾り、季節感を感じて頂けるようにしている。また、できるだけ窓を開けたり、外へ出る事で季節を感じてもらっている。	居間等には花や行事の写真・作品等で飾られている。居間から続くウッドデッキは別ユニットに繋がっており、外気浴をしたり等でユニット間の交流の場にもなっている。玄関周りは、ボランティアの好意により、季節を問わず花が咲いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの相性を考慮して席を考え、楽しく過ごせるように心掛けている。居室や廊下の休憩コーナーなど独りで過ごせる場所もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具などを持ってきて頂き、安心して暮らせるようにしている。掃除や温度管理にも注意しているが、行き届いていない時もあるので注意していきたい。	自宅で使用していた馴染みのタンスや小物等持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。簡単な掃除などは職員と一緒に出来る方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の出来ることを職員の都合で手を出さないということを再確認する場を設け、自立支援を行っている。トイレや自室に目印を付けるなど迷わないように工夫している。		